

住友金属株

橋中一誠 ○野田益弘

梶原正規

丁 緒 言

情報は使用されることにより情報たる意味をもつとの観点に立つとき、その管理体制として考えられる組織あるいは管理方法は利用と蓄積の整合性に留意したものでなければならない。一般に企業で要求される技術情報には、研究者が必要とする学術的情報、技術者が求めるテクニカル情報、および技術トップの経営戦略的技術情報があり、通常これらが有機的に複合されて一つの生きた情報が形成されるとみられる。したがって、組織的にはこれら三者の間で情報がスムーズに流通する体制であること、管理方法として十分体系化した整理蓄積機能を備えていることが要件となる。これらについて筆者らはこれまでに若干の経験と見識を得たので報告する。

II 合理的な情報管理体制の追求

4. 管理形態および流通組織

情報管理の形態については集中管理が最も進んだ方法であり、特に資料センター的機能を目的とする場合有効である。しかし外部情報機関がかなり充実してきた現在、一企業での資料センター的情報活動はむしろ必要最小限に止めるのも得策である。管理が分散的である場合は一元化された流通組織を確立することにより、その欠点を防止することが可能と考えられるが当社における技術情報管理体制はその一例と見られる。技術情報課をセンターとする当社の流通組織を単純化すると図ノに示すようである。

2 技術情報課の機能

(4) 管理情報

図ノの組織図に見られるように
ここでは東京技術部と研究所およ
び技術開発部門の協力を受けて、

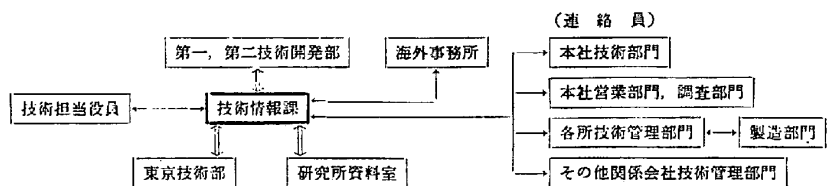


図1 技術情報の流れ図

次のような情報の管理に力点を置いて運営されている。1)国内外の最新技術情報、2)特定テーマの調査資料、3)社内技術情報、4)需要先および大学研究機関情報、5)国際会議資料、6)主要新聞、雑誌情報、7)技報編集発行。などであり、文献およびその検索は研究所に多くを負っている。

(2) 管理体制

組織：課内の業務分担は原則として収集係、分析調査係、資料編集係および総務に分けられ、必要により随時プロジェクトチームが結成される。各分担の関係はかなり柔軟性をもっている。

情報の加工：定期刊行物として抄録集、新聞切抜情報、技術情報誌および社外向けの住友金属(技報)を発行している。抄録集は旬報であり、収集した一次情報を400~600字の報知抄録とし、社内に広く配布、利用度は最も大きい。新聞切抜情報は毎日配布するが、平均20頁(ヨ4判)で現在60部程度発行、技術情報誌(月刊)は特定テーマについて調査分析結果をやゝ詳細に解説し情報提供するユニークな機関誌である。技報については編集委員会を組織し編集発行業務を行っている。これらは一部カード化され保管される。

四 考 察

以上を基本路線として情報管理体制の一元化に努め一応の成果は見られてきたが、いまだ問題点も少ない。組織が active で問題提起型の情報活動がなされる反面、対象範囲の片寄りが見られたり、情報の価値判断に客観性が欠ける問題が内在する。今後これらの問題点をいかにうまくコントロールし、ハード面を効果的にかみ合わせていくかが一つの課題として残されている。